

1. 平成 29 年度 NIPPON DATA2010 追跡委員会報告

NIPPON DATA2010 追跡委員会

- 研究分担者 門田 文 (滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任准教授)
研究分担者 大久保孝義 (帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授)
研究分担者 岡村智教 (慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授)
研究分担者 中川秀昭 (金沢医科大学総合医学研究所 嘱託教授)
研究協力者 中村好一 (自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 教授)
研究分担者 宮松直美 (滋賀医科大学看護学科臨床看護学講座 教授)
研究協力者 斎藤祥乃 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 大学院生)

事務局

- 研究協力者 近藤慶子 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 特任助教)
研究協力者 鈴木春満 (滋賀医科大学リーディング大学院 大学院生)
研究協力者 岡見雪子 (滋賀医科大学リーディング大学院 大学院生)
研究協力者 山内宏美 (滋賀医科大学リーディング大学院 大学院生)
研究協力者 志摩 梓 (滋賀医科大学リーディング大学院 大学院生)
研究協力者 布施恵子 (滋賀医科大学リーディング大学院 大学院生)
研究協力者 瀬川裕佳 (滋賀医科大学リーディング大学院 大学院生)
研究協力者 和氣 宗 (滋賀医科大学リーディング大学院 大学院生)
研究協力者 国村彩子 (滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任助教)

1. 平成 29 年度の活動

平成 29 年は、昨年実施した第 6 回の健康調査の実施、回収数の確定、第 7 回の健康調査を行った。また、初年度以降実施している医療機関への二次問い合わせを継続、また、イベント判定委員会の求めに応じて医療機関への追加情報の問い合わせを実施した。これまでの健康調査、住民票請求にて判明した死亡者について人口動態統計請求を行い、全例、死因を確定した。

2. 平成 28 年度調査最終報告

(1) 第 6 回 (2016 年) 発症追跡調査

1. 目的：発症追跡対象者の発症の確認
2. 調査対象：調査票発送数 2460 人
(第 5 回調査から死亡：23 件・拒否：17 件・職権消除 1 件・海外転出中 4 件を除いた数)
3. 調査内容：例年どおり
4. 調査票初回郵送 平成 28 年 10 月 1 日～10 月 31 日
5. 調査手順：調査票の郵送
未回収の場合は 3 週間毎にリマインダー葉書郵送 調査票再送 電話による聞き取り 宅配

調査結果：平成 29 年 3 月 31 日【確定】

	発送数	回収数(率)	回収率 累計
調査票郵送	2460 確	1687(73.5%)	68.6%
リマインダー葉書送付	645 確	295(45.7%)	80.6%
調査票再送	299 確	93(31.1%)	84.3%
電話による聞き取り等	359 確	302(84.1%)	96.6%
調査票宅配	41 確	14(34.1%)	97.2%
合計回収数		2391(97.2%)	97.2%

死亡:38 件

次年度以降拒否希望：調査終了確定 17 件

翌年度調査対象者数(確定): 2406

(2) 調査対象者数の推移

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
対象者数	2664	2662	2639	2600	2540	2505	2464	2409
(海外転出等)				(8)	(4)	(4)	(4)	(3)
郵送調査対象者数		2662	2639	2592	2536	2501	2460	2406
回収率		98.3	98.6	98.0	98.2	97.8	97.2	累計
追跡終了者数	2	23	39	60	35	41	55	255
(死亡)	(2)	(12)	(19)	(19)	(18)	(23)	(38)	131
(追跡拒否)		(11)	(20)	(41)	(17)	(17)	(15)	121
(その他)						(1)*	(2)*	3

* 2015 職権消除 1

* 2016 所在不明 1, 海外移住 1

3. 平成 29 年度調査状況

(1) 第 7 回(2017 年)発症追跡調査

1. 目的：発症追跡対象者の発症の確認

2. 調査対象：調査票発送数 2406 人

(第 6 回調査から死亡：38 件・拒否：15 件・その他 2 件、海外転出中 3 を除いた数)

3. 調査内容：例年どおり

4. 調査票初回郵送 平成 29 年 10 月 1 日～10 月 31 日

5. 調査手順：調査票の郵送

未回収の場合は 3 週間毎にリマインダー葉書郵送 調査票再送 電話による聞き取り 宅配

6. 調査準備：

ND 通信 (渋川・岩瀬・岡見・山内・布施・瀬川・近藤・門田)

調査手順マニュアル改訂(鈴木春満・岡見・山内・布施・瀬川・近藤・門田)

調査票作成 (例年どおり)

ファイルメーカー準備 (船木・島村・高嶋)

7. 調査実務：

鈴木春満・岡見・設楽・山内・瀬川・志摩・布施・和氣・炭・渋川・岩瀬・藤吉奈央子・国村吉田・船木・近藤・門田

平成 30 年 1 月 15 日時点

	発送数	回収数(率)	回収数(率)累計
調査票郵送	2406	1608(66.8%)	1608(66.8%)
リマインダー葉書送付	602	337(56.0%)	1945(80.8%)
調査票再送	244	62(25.4%)	2007(83.4%)
電話による聞き取り等	366	298(80.9%)	2305(95.8%)
調査票宅配	47	6(12.8%)	2311(96.1%)
合計回収数		2311	2311(96.1%)

死亡:22 件

次年度以降拒否希望：健康調査終了確定 16 件

郵送 2406 件はききとり希望者 140 件を含む（70 件は返信あり）

4. 医療機関への二次問い合わせ

引き続き、平成 29 年度発症調査（一部過去の調査含む）の自己申告結果に基づき、糖尿病、脳卒中、心疾患の新規発症等が疑われる症例について、医療機関への二次問い合わせを実施し、イベントの可能性が高いものについては、イベント判定委員会に資料を提出した。また、平成 23 年から 28 年度調査で得た発症疑い症例のうち、イベント判定委員会が追加情報を求めたものについて追加の問い合わせを行い、その結果をイベント判定委員会に提出した。

平成 30 年 1 月 15 日時点

(H27-H28)

	件数	回収数(率)	イベント判定へ
糖尿病	36	32(88.9%)	24
脳卒中	40	36(90.0%)	21
心疾患	99	96(97.0%)	29
合計	175	164(93.7%)	74

(H23-H28)

	件数	回収数 (率)	イベント判定へ
糖尿病	178	171 (96.1%)	93
脳卒中	101	96 (95.0%)	65
心疾患	299	286 (95.6%)	126
合計	578	553 (95.7%)	284

6 . まとめ

平成 22 年に全国多数の地区で実施した研究班調査「循環器病の予防に関する調査 (NIPPON DATA 2010)」参加者を対象に第 7 回の発症調査を実施した。調査対象者には半年に一度通信を発送して、本研究から得られた知見を紹介し、本研究の社会的意義を伝えている。これによって好意的なコメントが調査票の自由記載欄に寄せられている。その一方で、調査票の郵送では回収できず、電話によるコンタクトを必要とする件数も 300 件以上と多い。勤労者層は昼間連絡のとれない方も多い。これらの年齢層には WEB 登録等、セキュリティの確保が必須ではあるが時勢に応じた調査方法の検討も必要である。高齢や煩わしさを理由とした調査の継続拒否も散見される。全国に散在する対象者の協力意思をどのように継続するか、が最大の課題である。今後も本研究の意義を対象者個人に、またメディアを通じて社会的にアピールすることが必要である。医療機関への二次問い合わせについても協力率を高めるため、今後も本研究の成果をアピールし各種学会の協力を得るなどの方策が必要である。一方、追跡調査の事務局はスタッフの世代交代等はあるものの、年々、追跡調査作業がスムーズに運ぶようになった。院生等含め皆が追跡調査作業マニュアルの改訂等に積極的に関わり、コホート研究の手法を継承・改革している成果といえよう。

第 7 回追跡調査実務担当者

吉田稔美 船木彰子 近藤慶子 門田文 渋川武志 炭昌樹 鈴木春満 岡見雪子 岩瀬弘明
藤吉奈央子 設楽智史 山内宏美 瀬川裕佳 布施恵子 志摩梓 Pham Kim Tai 和氣宗 国村彩子
菅原悠